



今月の先生

岐阜市民病院

足立 尊仁 氏

岐阜市民病院外科  
肝・胆・膵外科部長

日本外科学会指導医・専門医  
日本消化器外科学会指導医・専門医・  
消化器がん外科治療認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
肝胆膵外科学会高度技能指導医  
日本静脈経腸栄養学会認定医  
麻酔標榜医

# 働くあなたのクリニック

## 黄疸といわれたら



「黄疸」とは、「体が黄色くなる病気」とよく聞きますが、実際に、皮膚や粘膜が黄色っぽく見えるので間違いいは無いようです。よく知られていそうな黄疸ですが、その症状、原因と治療方法についてお聞きしました。

**Q1 黄疸とはどのような症状がありますか？**

**A** 黄疸とはビリルビンという色素が何らかの原因で血液中に増加し、その結果、全身の皮膚や粘膜に過剰に沈着した状態を意味します。例えば、身体や白目の部分がやけに黄色っぽくみえる、尿の色が濃い、湿疹でもないのにやたら身体がかゆいなどの自覚症状を認めます。では、ビリルビンとはどのような物質でしょうか。ビリルビンは全身に酸素を運搬する赤血球の中に含まれるヘモグロビンという物質が壊れていく過程で生じる一種の代謝産物です。老廃赤血球を一旦壊して作りなおす反応は脾臓や肝臓、骨髄等の臓器でいつも一定の割合で起こっています。初めにヘモグロビンから間接型ビリルビンが産生されて、これが肝臓に運ば

れて代謝され、直接型ビリルビンに変わります。この直接型ビリルビンは非常に水に溶けやすく、胆汁中に分泌されてさらに肝臓から胆管を経て十二指腸乳頭部から十二指腸内に排泄されます。便の色が茶色をしているのは主に胆汁中のビリルビンとその代謝産物のためです。

**Q2 黄疸の原因は何がありますか？**

**A** では、黄疸の原因にはどういったものがあるのでしょうか。黄疸は大きく内科的治療を必要とするもの（内科的黄疸）と外科的治療を必要とするもの（外科的黄疸）に分けられます。内科的黄疸には、①溶血によるもの（溶血性黄疸）、②肝細胞の障害によるもの（肝細胞性黄疸）、③体質性のも（体質性黄疸）があります。外科的黄疸は、胆汁の流れが障害されることによりおこります。肝内胆汁うっ滞症と外科的治療が必要な閉塞性黄疸（結石、腫瘍などが原因となり胆汁の排泄路である胆管が狭窄して黄疸をきたします）とがあります。

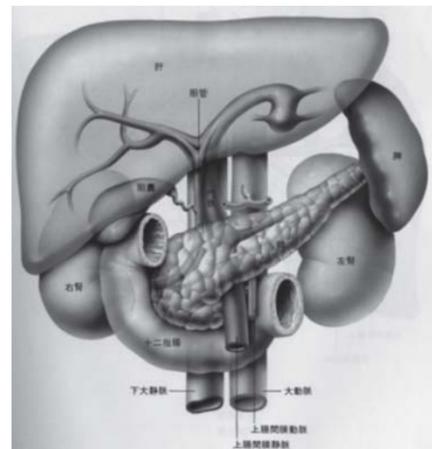
**Q3 閉塞性黄疸の原因は何がありますか？**

**A** 胆管結石、一部の胆嚢結石、腫瘍形成性膵炎、良性胆道狭窄、良性胆管腫瘍、胆管癌、膵頭部癌、乳頭部癌、胆嚢癌、肝癌、癌の胆管周囲リンパ節への転移など直接胆管を狭窄する病態が挙げられます。

**Q4 閉塞性黄疸の治療にはどのようなものがありますか？**

**A** 閉塞性黄疸を改善するためには、まず、胆管の中に溜まっている胆汁を体外に出す必要があります。一般に減黄処置といわれるものです。そうすることにより、黄疸が改善して熱のある場合は熱が下がり、皮膚や目の黄色い色や体のかゆみもとれ、尿の色も元通りの薄い黄色になってきます。しかし、胆汁は体外に出て腸に流れまわらないので、便の色はまだ白っぽいままです。

同時並行して原因の精査と治療が行われます。外科的治療は、この原因を



(腹部エコーのABCより抜粋)

手術で切除することを目的とします。図に示した通り、胆汁の排泄経路には、いくつかの主要臓器や血管が隣接し複雑です。手術も複雑になってきます。黄疸と関係が深い肝・胆・膵領域の外科治療は専門性が高く、高度な技術を要します。また、検査や診断も専門の内科医や放射線科医が欠かせません。黄疸を認めるときや疑われるときは、早急に専門医にご相談されることをお勧めします。